



2022年1月27日

各 位

会 社 名 日本精化株式会社
代表者名 代表取締役 矢野浩史
 執行役員社長
 (コード番号4362 東証第1部)
問合せ先 経営企画室長 大倉善弘
 (TEL. 06-6231-4781)

(訂正)「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部訂正について

2022年1月27日16時30分に公表いたしました「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に一部訂正すべき事項がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、訂正箇所には下線を付しております。

記

1. 訂正の理由

ヘッダー情報に誤りがありましたので、これを訂正します。

2. 訂正の内容

「2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」1ページから7ページのヘッダー

【訂正前】

日本精化株式会社(4362) 2021年3月期 第3四半期決算短信

【訂正後】

日本精化株式会社(4362) 2022年3月期 第3四半期決算短信

以上

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、世界的な景気回復に伴う需要拡大、部品供給不足の改善に伴う自動車生産の回復や、9月末の緊急事態宣言解除による活動制限の緩和を受けた消費活動の持ち直しなどを背景に景気は改善傾向にあります。一方で、足許では新型コロナウイルスのオミクロン株の感染急拡大、また、サプライチェーンの混乱や物価上昇など景気の下振れリスクがあり、先行きは引き続き不透明な状況が続いております。

このような事業環境のなかで、当社グループは経営基盤の更なる強化に取り組むとともに、収益拡大に貢献する製品開発とその拡販に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は247億8千9百万円（前年同四半期比10.7%増）となりました。利益面は営業利益37億5千6百万円（同25.6%増）、経常利益39億8千万円（同24.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は26億8千2百万円（同9.5%増）となりました。

なお、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

① 工業用製品事業

当セグメントにおきましては、ラノリン・コレステロールは、中国、米国の景気回復に伴い海外向け販売が大幅に増加しました。化粧用機能原料は、中国、国内の化粧品市場の回復や、顧客の大型製品に当社品が採用されたことなどにより前年同期を上回りました。医薬用リン脂質は、海外向け拡販が計画通りに進みました。また、汎用工業用原料は、半導体、自動車などの需要が回復し販売が増加しました。一方で、機能性コーティング剤は、医療用保護メガネ用途の需要が落ち着き、販売が減少いたしました。この結果、売上高は175億1千1百万円（前年同四半期比23.5%増）となりました。販売増加に伴う工場稼働の改善や品種構成の良化などもあり、セグメント利益（営業利益）は28億4千2百万円（同58.7%増）となりました。

② 家庭用製品事業

当セグメントにおきましては、新型コロナウイルス感染拡大により環境衛生関連市場は拡大しましたが、新規業者参入などの影響もあり品薄状態が解消され販売が減少いたしました。この結果、売上高は64億1千2百万円（前年同四半期比14.1%減）、セグメント利益（営業利益）は6億6千5百万円（同39.1%減）となりました。

③ その他

その他の事業の売上高は8億6千5百万円（前年同四半期比16.5%増）、セグメント利益（営業利益）は2億4千7百万円（同133.0%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度（以下「前期」という。）比15億5百万円増加し、547億7千1百万円となりました。これは主として、現金及び預金が減少した一方で、受取手形及び売掛金並びに原材料及び貯蔵品の増加などにより流動資産が4億1千2百万円増加し、建設仮勘定の増加などにより固定資産が10億9千3百万円増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間の負債は、前期比3千3百万円増加し、104億5千2百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金の増加などにより流動負債が1億6千万円増加した一方で、環境対策引当金の減少などにより固定負債が1億2千6百万円減少したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間の純資産は、前期比14億7千2百万円増加し、443億1千8百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上26億8千2百万円及び配当金の支払い10億3千2百万円などにより株主資本が16億4千8百万円増加した一方で、その他有価証券評価差額金の減少などによりその他の包括利益累計額が2億6千万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2021年10月28日公表の通期業績予想に修正はありません。なお、業績予想は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,373,553	12,273,943
受取手形及び売掛金	7,873,963	8,989,763
商品及び製品	2,659,849	2,983,194
仕掛品	1,801,691	2,109,539
原材料及び貯蔵品	2,088,918	2,832,736
その他	131,006	152,449
貸倒引当金	△244	△207
流動資産合計	28,928,738	29,341,420
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,706,052	3,619,378
機械装置及び運搬具（純額）	1,574,103	1,391,917
土地	3,725,754	3,759,754
建設仮勘定	1,690,857	3,603,191
その他（純額）	533,407	567,216
有形固定資産合計	11,230,174	12,941,458
無形固定資産		
投資その他の資産	309,678	305,524
投資有価証券	12,535,526	11,891,393
退職給付に係る資産	—	15,723
その他	261,297	275,611
投資その他の資産合計	12,796,823	12,182,728
固定資産合計	24,336,677	25,429,711
資産合計	53,265,415	54,771,132

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,944,584	4,708,725
未払金	696,549	589,069
未払法人税等	702,979	561,833
賞与引当金	635,230	419,429
役員賞与引当金	118,100	69,165
環境対策引当金	101,400	66,102
設備関係未払金	444,091	222,624
その他	662,057	828,306
流動負債合計	7,304,994	7,465,256
固定負債		
繰延税金負債	2,659,469	2,600,112
環境対策引当金	178,193	116,861
退職給付に係る負債	132,453	129,394
長期末払金	24,984	15,600
長期預り保証金	99,213	103,293
資産除去債務	9,430	9,430
その他	9,926	12,379
固定負債合計	3,113,671	2,987,072
負債合計	10,418,665	10,452,328
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,933,221	5,933,221
資本剰余金	6,803,377	6,803,377
利益剰余金	23,358,507	25,007,945
自己株式	△1,025,109	△1,025,592
株主資本合計	35,069,997	36,718,952
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,675,536	6,255,735
繰延ヘッジ損益	7,877	1,507
為替換算調整勘定	365,750	536,672
退職給付に係る調整累計額	△3,152	△7,925
その他の包括利益累計額合計	7,046,012	6,785,990
非支配株主持分	730,739	813,860
純資産合計	42,846,750	44,318,803
負債純資産合計	53,265,415	54,771,132

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	22,394,247	24,789,324
売上原価	15,631,945	17,050,343
売上総利益	6,762,301	7,738,981
販売費及び一般管理費	3,772,811	3,982,692
営業利益	2,989,490	3,756,288
営業外収益		
受取利息	23,868	27,079
受取配当金	186,399	204,857
雑収入	24,140	24,941
営業外収益合計	234,408	256,879
営業外費用		
支払利息	951	749
為替差損	31,895	31,575
雑損失	4,809	60
営業外費用合計	37,656	32,385
経常利益	3,186,242	3,980,782
特別利益		
固定資産売却益	2,211	233
投資有価証券売却益	74,511	0
子会社出資金売却益	309,852	—
特別利益合計	386,575	233
特別損失		
固定資産除却損	73,448	50,619
減損損失	42,158	—
投資有価証券売却損	—	324
特別損失合計	115,607	50,944
税金等調整前四半期純利益	3,457,210	3,930,071
法人税、住民税及び事業税	720,969	1,026,701
法人税等調整額	225,579	153,153
法人税等合計	946,549	1,179,855
四半期純利益	2,510,661	2,750,216
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,449,168	2,682,476
非支配株主に帰属する四半期純利益	61,492	67,739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,648,517	△419,801
繰延ヘッジ損益	537	△7,078
為替換算調整勘定	57,278	224,464
退職給付に係る調整額	3,370	△4,773
その他の包括利益合計	1,709,703	△207,188
四半期包括利益	4,220,364	2,543,027
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,136,677	2,422,454
非支配株主に係る四半期包括利益	83,687	120,573

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしました。

なお、「収益認識に関する会計基準の適用指針」第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品又は製品の国内の販売において、出荷時から当該商品又は製品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の当期首残高へ与える影響はありません。

また、当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響もありません。

「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結累計期間等に係る四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注) 2
	工業用製品 事業	家庭用製品 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	14,183,324	7,467,981	21,651,306	742,941	22,394,247	—	22,394,247
セグメント間の内部 売上高又は振替高	135,761	30,031	165,792	25,602	191,394	△191,394	—
計	14,319,085	7,498,013	21,817,098	768,543	22,585,641	△191,394	22,394,247
セグメント利益	1,790,979	1,092,088	2,883,067	106,422	2,989,490	—	2,989,490

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び薬理・安全性試験の受託を行う事業を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

家庭用製品事業セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては、42,158千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益及び包括 利益計算書 計上額 (注) 2
	工業用製品 事業	家庭用製品 事業	計				
売上高							
顧客との契約から生 じる収益	17,511,167	6,412,413	23,923,580	631,594	24,555,175	—	24,555,175
その他の収益	—	—	—	234,149	234,149	—	234,149
外部顧客への売上高	17,511,167	6,412,413	23,923,580	865,744	24,789,324	—	24,789,324
セグメント間の内部 売上高又は振替高	115,643	32,939	148,582	31,813	180,396	△180,396	—
計	17,626,810	6,445,352	24,072,162	897,558	24,969,720	△180,396	24,789,324
セグメント利益	2,842,905	665,469	3,508,375	247,913	3,756,288	—	3,756,288

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び薬理・安全性試験の受託を行う事業を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に變更しております。

なお、当該変更による当第3四半期連結累計期間のセグメント利益への影響はありません。